

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん



**2021年度 年主題〈共に喜んで～全ての歩みの中～〉**

**0・1・2歳児 4月主題 「はじめまして」「であう」**

月のねがい

- ◎神様から授かった命として大切にされる (0才児)
- ◎新しい環境の中で友だちや保育者に出会う (0才児)
- ◎保育者の祈りや賛美する姿を通して神様に会う (1才児)
- ◎新しい環境や友だちに出会い、親しみを待つ (1才児)
- ◎受け入れられていると感じ、安心する (1才児)

**3・4・5歳児 4月主題 「ひとりひとりの名を呼んで」**

月のねがい

- ◎ひとり一人が保育者や園の環境を通して神様から愛されていると感じ、安心して過ごす。
- ◎春から初夏の自然の中に身を置き、楽しむ
- ◎置かれた環境の中、安心して過ごしあそび始めると共に進級したことを喜びはりきって過ごす

**今月の聖句 「わたしはよみがえりです。いのちです。」**

ヨハネ 11:25

「いのち」とは何でしょうか。聖書では「いのち」にはいくつかの側面があると指摘されています。まずは肉体的いのちがあります。同時に、精神的いのちもあります。それを「魂」と呼ぶこともあります。「魂」という「いのち」は、私たちの存在の根幹になるものです。私たちの存在そのものとも言えます。それがなければ本当の自分として生きることが出来ないようなものです。どんなに肉体的に長生き出来たとしても、この最も大切な自分を手に入れて生きていなければ、「いのち」は半減してしまいます。

その「魂」という「いのち」の基礎を形成するのが、まさに幼児期であり、幼児教育です。その時期に、子どもたちはその感性を磨かれ、情緒豊かになり、一人ひとりの人間形成の根幹部分が形造られていきます。家庭の中でもそうですが、家庭では体験し得ないようなより広い人間関係が展開されることも園の中で、様々な刺激を受けながら自我の目覚めと他者を尊重する思いが開花していきます。そこで「いのち」を体感し、体験していくのです。

そのような「いのち」を育むことの出来る子どもは、大人に成長する過程の中で、様々な難題や壁にぶち当たったとしても、それに押し潰されず、それを乗り越える力を身に付けます。まさに「いのち」を身につけるのです。子どもたちは、そういう意味で、可能性の宝庫です。その子のその子らしさを見出し、その個性を伸ばしてあげられるように、子どもの成長を見守りたいものです。

西之表基督教会 協力牧師 池田基宣



新緑に覆われた園庭で、木々や花々や遊具たちが新しい子どもたちを楽しみに待っているようです。枝だけだったセンダンの木も薄紫の花をつけ、風に吹かれて散り始めました。春めいた日差しが、淡いピンク色に咲き誇る月見草に降り注いでいます。ご入園、ご進級おめでとうございます。改めて縁と新しい縁に祈りを重ねていきたいと思っております。

本年度のキリスト教保育の年間主題は、「共に喜んで～すべての歩みの中～」が示されました。年間主題は保育目標として位置づけられており、日々保育を営む中で、常に「立ち返る場所」として位置づけられております。当たり前に行ってきたことが、容易にできなくなったり、コロナ禍。それでも、一通りの行事や活動が達成できたことは、まことに恵まれたことで感謝でした。そのことに思いを馳せながら日々の保育の中で、共に喜ぶことの意味をしっかりと考えていきたいと思っております。何より大事なことは、子どもたちとは、互いに神さまに命を与えられ、特別に出会わせていただいた関係であるということです。あらゆる時に、一緒に祈り、讃美し、心の平安を与えられること。豊かな自然の中で、感性を震わせる体験を重ねること。子ども同士、保育者と子どもたちが思いや考えを出し合ったり遊んだり生活を作り出すこと。そして、神さまによって与えられた子どもたちの命と成長の一人ひとりを、保護者の皆さんと共有し共感できることなど。一緒に子どもたちを愛し育てる関係を築きながら、共に喜びあえたいと願うものです。

また、子どもの育ちには、「タイケン・タンケン・タイヘン」が必要だと考えています。保育活動や行事で味わう様々な体験(吸収)。未知の世界へ興味・関心を寄せる探検(探求)。そして、少し大変(克己)なことにも挑戦する意欲。今年もこのキャッチフレーズで共に育ち合えれば幸いです。

集団生活を初めて経験する子どもたちにとって、園生活は期待と不安の混じったものでしょう。初めての環境は大人でも緊張します。「何より「だじょうぶだよ!」という言葉が安心へと導きます。「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えないものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」と聖書にあります。神さまが与えて下さるこの環境の中で、共に喜ぶ生活を目指して参ります。子どもたちがいるがままの「自分」をしっかりと生きていけるよう祈りつつ、保護者の皆様と心を込めて寄り添うことができよう努力してまいります。

首都圏の緊急事態宣言が解除され、ようやく一息ついたと思っただけの間。早くも「第四波」とも言える状況になりつつあります。ワクチン接種の効果にも期待が高まりますが、国民一人一人の意識が何よりも必要です。互いに協力しながら乗り越えて参ります。六十四年目を迎える本年度も、職員一同心を尽くして努力して参ります。何卒ご支援の程を宜しくお願いいたします。

共に喜びあえる生活

入園した子どもたちは保護者と離れることや、園生活への見通しが持てないことによる不安が大きいことが多いです。泣いて保育者のそばから離れられない子どもも多くいることでしょう。

保育者はそのような不安な気持ちを受け止めつつ、園が子どもたちの居場所になるよう支えることが一番の狙いになります。そのために保育者は子どもたちを取り巻く身近な物との出会いを支えていきます。その時に大切にしたいのは「どんなものとも関わってもいいんだよ」というメッセージを伝える事だと思っています。園庭に出ると、砂場、泥、ダンゴムシ、テントウムシ等が待っています。それらに心動かされる子どもも多いでしょう。その際に「大丈夫だよ」と心の後押しをしてあげることで子どもたちは安心して身近な環境に心を開き、自分の力を発揮してあそぶようになり、そのことで、園が居場所となっていきます。

**令和3年度新学期がスタートしました**

泣いているときに抱っこしたり、歌を歌ったり・・・。そのように「保育者と一緒に過ごしながら親しみを持つ」ことをこの時期のねらいとします。

この時期の保育者は、実際、猫の手も借りたいぐらい忙しいです。からだは一つですが、子どもたちひとり一人と向き合っていくながら信頼関係を築いて行きます。十分に応えられず子どもに翻弄されることもしばしばです。そんなとき、スキンシップや、ユーモアあるあそびを通して、笑い合ったりすることで、次第に「園が大好き。先生大好き」な子どもになっていきます。

ゆったりとした気持ちで、子どもたちが居場所を見つけあそびを見つけて動き出していけるよう、見守り、応援していきたいものです。

「身近な自然を活かした保育実践とカリキュラム」松元信吾著より



**”保育者と一緒に過ごしながら、親しみを持つ”**

新しいお友だちも加わり、泣き声・笑い声、色んな声でにぎやかな子ども園です。みんな泣いて笑ってたくさん遊んで、少しずつ園生活に慣れていきますように・・・。

久しぶりの晴れの日、園庭ではあい組さんが「あっちゃかな?」「ここにいそう」「コップ持ってくる?」となんだか大忙し。そのお目当ては・・・みんな大好きダンゴムシ!! 子どもたちに見つかって慌てて逃げ出すも、捕まってしまう。でも子どもたちも優しくそっつとコップやお皿の中に入れ、「お相撲してる!」「ごっつんこしてるよ!」とダンゴムシの動きを嬉しそうに観察しています。ダンゴムシさん、この春もお世話になります。さて、お散歩から帰ってきた年長児さん。手にしていたものは・・・カラスノエンドウ! ピーピー笛を作ろうと悪銭苦闘中。でも笛ができて鳴らすのがまた難しい…。それでも何度も何度も挑戦しています。みんなで鳴らせる日を楽しみに♪

先日、『五感を使った自然体験』についてのリモート研修を受けました。自然との関わりで育つもの、「自然環境で遊び心も体も健康に」「自然への興味・関心が広がり、豊かな感性はぐくまれる」「動植物との触れ合いによって生命の尊さに気付く」。これら3つの豊かな自然体験が、子どもたちの「生きる力」の源となることを改めて感じました。子ども園の周りは恵まれた環境や種子島の豊かな自然がいっぱい。子どもたちがたくさん遊びを見つけられるように、保育者自身ももっと勉強して子どもたちと楽しんでいこうと、保育者同士で話し合ったところです。保護者の方々も子どもの時にしていた草花遊びなどあれば子どもたちと一緒に遊んでみてくださいね♪

主任 松元かおり

